①自分の思いや気持ちをたっぷりと表現しながら、それを十分に受け止めてもらう中で**自分の気持ちに気付いていく**

4・5・6月

園長：こんなに小さい時から支え合って生活しているんですね

ひとりで滑り台を滑るのに自身がなかったはるきくんの姿に気付いたにこにこのすいちゃんが、はるきくんの手をとって、支えてくれていました。『誰かに自分の姿を気付いてもらって、受け止めてもらう』という体験を、保育園では子ども同士でも行っています。

ちゃんとゴール地点をふたりで見ている姿もかわいくて、すてき。気持ちが通じているからこその姿だから、②の保育目標とも重なりますね。

甘え上手なはるきくんの姿に、何度も応えてくれるすいちゃんのやさしさにもほっこりしました。

小学生のお姉さんが来てくれて、優しく接してもらったり、安心できる先生と一緒にいろんなことに挑戦したりしながら過ごしてきました。

園長：小さい子の気持ちに気づいてくれる卒園児に心を委ねる経験が人を育てる力を育てますね

お散歩のバギーの屋根を使っていないいないばぁを見せてくれるかなでくんとなぎさちゃん。
入園の頃は、まだ慣れない保育園で「自分」を出し切っていないかったのか、ポーカーフェイスが多かったふたりが、どんどん新しい表情を見せてくれるようになってきたのが嬉しかったなぁ。

大人に受け止めて貰いながらと笑い合って、気持ちが通じ合う喜びを感じてもいますね。
②の年間目標の内容とも繋がる場面です！

園長：受け止めてもらえることで、自分がどんどん出せるようになっていくんですね

はるきくんが遊んでいたフラフープの「山手線ごっこ」を見て、わかちゃんが「いーれーてー」とやってきました。今度はわかちゃんと先生で、「まーるいみどりのやまのてせん♪」の歌に合わせて出発進行！

「もっかーい！」と何度もリクエストしていて、楽しいきもちがこちらにも伝わってきますね＾＾

園長：子どもに応じる楽しさが、また子どもにも伝わって響き合うのですね